

# 株式会社ジェイ・ポート

## 2020 年度 環境経営レポート

(対象期間 2019 年10月1日～ 2020 年9月30日)



作成日： 2021年1月12日

# 環境経営方針

## <環境経営理念>

私たちが関わる産業廃棄物業界においては、不法投棄、有害物質の発生、大気汚染、自然破壊といったネガティブなイメージが先行している一面が少なくないかもしれません。

ある意味それは当業界の業務が環境に多大な影響を与えることを示しており、今後、我々は人・社会・自然など地球のすべてのものと共生をすることを考えた上で環境保全活動に率先して取り組まなければならない責務を負っていると言えます。

同時にその影響力をもって、我々の地道な業務の積み重ねにより世の中をいい方向に変えられるという気概を社員一人一人が持ち続けたいと考えます。

これまで私達が不自由なく享受してきた水・大地・空気といったかけがえのない地球の財産を次世代に美しい状態で引き渡すため、ひいては経済活動（エコノミー）と環境保全（エコロジー）が両立できる持続可能な社会を創り出すため、その社会的責任を自覚し、社員一丸となり継続的に環境活動に取り組んで参ります。

## <環境保全への行動指針>

- 1 . 私達は、大量消費社会から循環型社会への転換を図るべく以下の環境方針に沿って、環境保全活動に取り組めます。  
環境関連法令と当社が承認した協定等を遵守し、産業廃棄物の適正処理を行います。
- 2 . 省エネルギー、省資源、再資源化、グリーン購入に配慮した事業活動を展開します。  
また、電気使用量、燃料消費量、ゴミの排出量等の数値を把握し削減目標及び再資源化（リサイクル率）向上を目指し、目標達成できるよう社内全体で努めます。
- 3 . 社内での意識を高める為、社員への環境教育、啓蒙活動を行います。
- 4 . 社外に対し、環境活動レポートを公表し、当社で行う環境保全活動を紹介し環境に関する情報を提供します。
- 5 . 地域に根差した企業として住民の皆様の要望に耳を傾け、協力し環境コミュニケーションを大切にしていきます。



制定日：2008年10月1日

改定日：2021年1月12日

代表取締役 **樋下 茂**

## □組織の概要

更新日：2021年1月12日

### (1) 名称及び代表者名

株式会社ジェイ・ポート

代表取締役 樋下 茂

### (2) 所在地

本社 大阪府大阪市鶴見区今津北3丁目3番13号

第二工場 大阪府大阪市鶴見区今津北3丁目2番10号

此花リサイクル工場 大阪府大阪市此花区梅町2丁目3番55号

### (3) 環境管理責任者氏名及び担当者連絡先

責任者 取締役 樋下 香織 TEL：06-6963-5351

担当者 環境事務局 松本 輝希 TEL：06-6963-5351

### (4) 事業内容

産業廃棄物処分業（中間処理）、産業廃棄物収集運搬業（積替保管あり）

特別管理産業廃棄物収集運搬業（積替保管あり）、道具商、金属くず商

### (5) 事業の規模

法人設立 1996年8月2日

事業年度 8月～翌年度7月

資本金 1,300万円

売上高 60520万円

	本社	第二工場	此花リサイクル工場
従業員	32名		
床面積	423.8 m <sup>2</sup>	326.75 m <sup>2</sup>	330 m <sup>2</sup>
敷地面積	438.9 m <sup>2</sup>	339.9 m <sup>2</sup>	2,951 m <sup>2</sup>
駐車場	202.00m <sup>2</sup>		—

受託した産業廃棄物の処理量

収集運搬量	10,922 t		
中間処理量	1,397 t	うち再資源化量	1,108 t
中間処理後の最終処分量	289 t		

所有車輛	台数	車種	台数	車種	台数
10 t コンテナ車	1台	2t車	2台	営業車	3台
8 t コンテナ車	2台	6 t プレス	1台	パワーショベル	3台
4 t コンテナ車	2台	3 t プレス	2台	フォークリフト	3台
2 t コンテナ車	1台	2 t プレス	1台	ホイールローダー	1台

工場設備	本社工場		第二工場		此花リサイクル工場
	産廃	特管産廃	産廃	特管産廃	産廃
保管面積	165m <sup>2</sup>	10m <sup>2</sup>	148m <sup>2</sup>	13m <sup>2</sup>	82.5m <sup>2</sup>
保管上限	106m <sup>2</sup>	2m <sup>2</sup>	73m <sup>2</sup>	2m <sup>2</sup>	2.5m×1/2
積み上げ高さ	2.1m	1m	2m	0.7m	103m <sup>3</sup>
設備	150 t プレス1基、75 t プレス1基		30 t トラックスケール		一軸破砕機
	天井式クレーン2基、切断機2台		天井式クレーン1基		4.7 t / 日

※プレス機は現在使用停止中

## □認証・登録の対象組織・活動

登録組織名：株式会社ジェイ・ポート

対象事業所：本社

第二工場

此花リサイクル工場

活動：産業廃棄物処分業（中間処理）、産業廃棄物収集運搬業（積替保管あり）

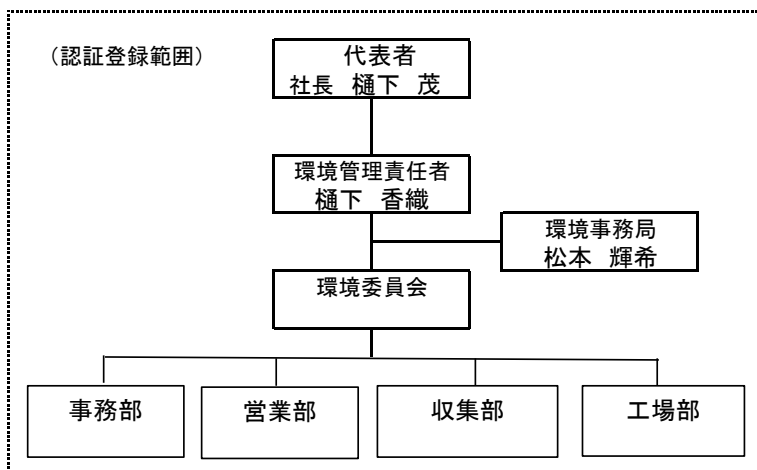
特別管理産業廃棄物収集運搬業（積替保管あり）、道具商、金属くず商

## □事業の紹介

清掃法が成立した昭和29年、大阪市より一般廃棄物収集運搬業の許可を得て以来、65年にわたり廃棄物に携わっている会社です。時代とともに法律が変わり、一般廃棄物のみならず、産業廃棄物に特化した株式会社ジェイ・ポートを設立し、多様なニーズに応じております。主な事業は産業廃棄物処理業です、運ぶ、中継する、処分するを一貫して行っております。また、海外へのリユース品の輸出するリユース事業、お客様に環境に関する情報を提供、セミナーなどを行う環境コンサル事業も行っております。

□環境経営組織図及び役割・責任・権限表

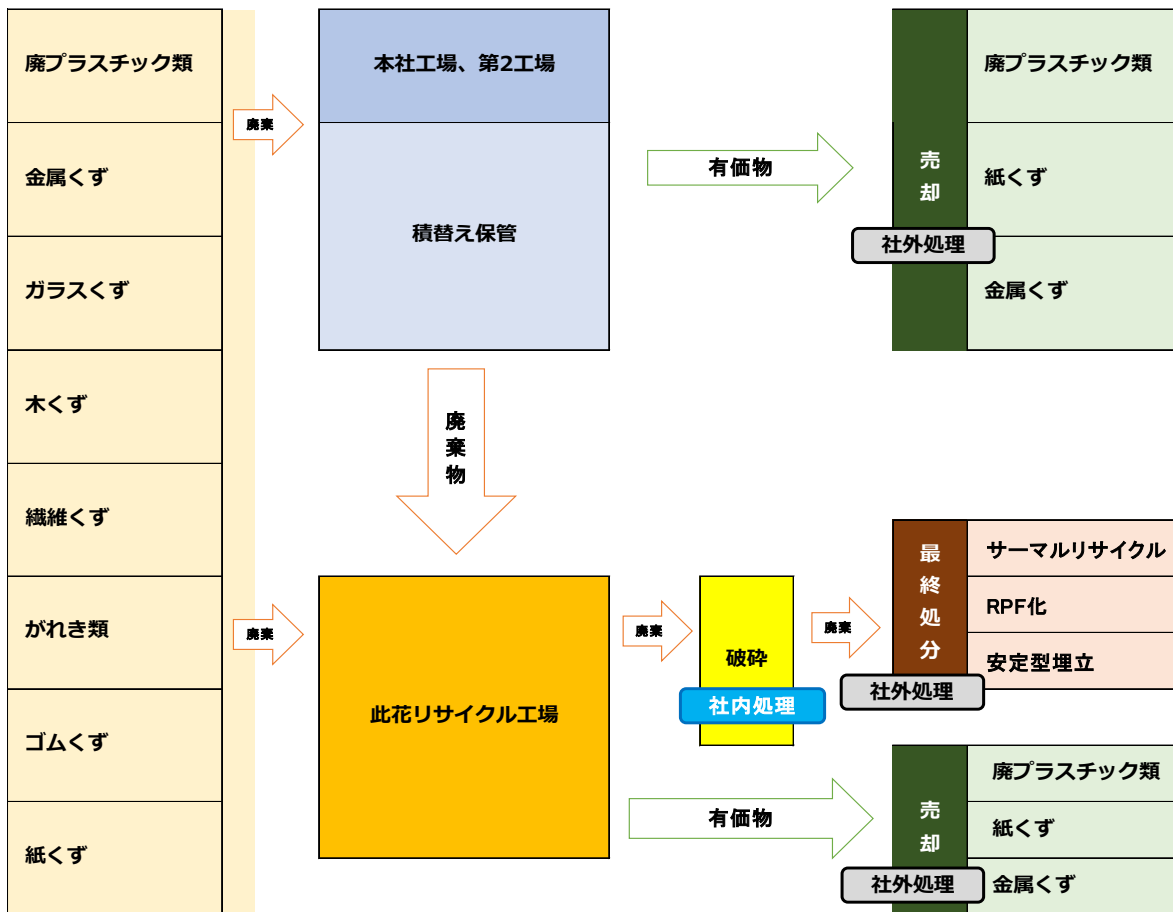
更新日：2021年1月12日



	役割・責任・権限
代表者(社長)	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境経営に関する統括責任</li> <li>環境経営システムの実施に必要な人、設備、費用、時間等経営資源を準備</li> <li>環境管理責任者を任命</li> <li>環境経営方針の策定・見直し</li> <li>環境経営目標・環境経営計画書を承認</li> <li>代表者による全体の評価と見直し、指示</li> <li>環境経営レポートの承認</li> </ul>
環境管理責任者	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境経営システムの構築、実施、管理</li> <li>環境関連法規等の取りまとめ表を承認</li> <li>環境経営目標・環境経営計画書を確認</li> <li>環境活動の取組結果を代表者へ報告</li> <li>環境経営レポートの確認</li> </ul>
環境事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境管理責任者の補佐、環境委員会の事務局</li> <li>環境負荷の自己チェック及び環境への取り組みの自己チェックの実施</li> <li>環境経営目標、環境経営計画書原案の作成</li> <li>環境活動の実績集計</li> <li>環境関連法規等取りまとめ表の作成及び最新版管理</li> <li>環境関連法規等取りまとめ表に基づく遵守評価の実施</li> <li>環境関連の外部コミュニケーションの窓口</li> <li>環境経営レポートの作成、公開(事務所に備付けと地域事務局への送付)</li> </ul>
環境委員会	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境経営計画の審議</li> <li>環境活動実績の確認・評価</li> </ul>
部門長	<ul style="list-style-type: none"> <li>自部門における環境経営方針の周知</li> <li>自部門の従業員に対する教育訓練の実施</li> <li>自部門に関連する環境活動計画の実施及び達成状況の報告</li> <li>時部門に必要な手順書の作成及び手順書による実施</li> <li>自部門の想定される事故及び緊急事態への対応のための手順書作成</li> <li>試行・訓練を実施、記録の作成</li> <li>自部門の問題点の発見、是正、予防処置の実施</li> </ul>
全従業員	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境方針の理解と環境への取り組みの重要性を自覚</li> <li>決められたことを守り、自主的・積極的に環境活動へ参加</li> </ul>



□廃棄物処理フロー



処理料金につきましては、引き取り場所、品目等により異なりますので、当社までお問い合わせください。

□主な環境負荷の実績

項目	単位	2018年	2019年	2020年
二酸化炭素総排出量	kg-CO <sub>2</sub>	162,184	142,282	178,066
受託収集運搬量	トン	10,444	11,428	10,922
受託中間処理量	トン	1,410	1,410	1,397
廃棄物排出量	kg	93	84	81
一般廃棄物排出量	kg	93	84	81
水使用量	m <sup>3</sup>	664	495	564

※電力の二酸化炭素排出係数 0.334kg-CO<sub>2</sub>/kWh 関西電力の2019年度、調整後の排出係数

□環境経営目標及びその実績

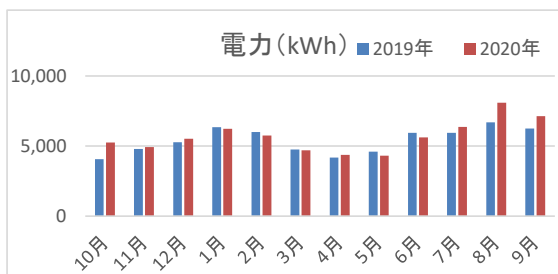
項目	年度	単位	基準値	2020年		評価	2021年	2022年
			(基準年)	(目標)	(実績)		(目標)	(目標)
電力による二酸化炭素削減	kg-CO <sub>2</sub>		21,431	20,574	22,800	×	20,359	20,145
	基準年度比		2019年	96%	106%		95%	94%
自動車燃料による二酸化炭素削減	kg-CO <sub>2</sub>		120,851	117,226	155,266	×	116,017	114,809
	基準年度比		2019年	97%	128%		96%	95%
上記二酸化炭素排出量合計	kg-CO <sub>2</sub>		142,282	137,799	178,066	×	136,377	134,954
一般廃棄物の削減	kg		84	78	81	×	76	73
	基準年度比		2019年	93%	96%		90%	87%
受託廃棄物のリサイクル率の向上	%		—	52%	79%	○	54%	56%
水道水の削減	m <sup>3</sup>		495	455	564	×	446	436
	基準年度比		2019年	92%	114%		90%	88%
環境に配慮した収集運搬	行動目標(次項による)							

□環境経営計画の取組結果とその評価

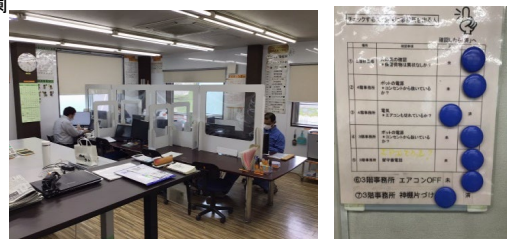
数値目標: ○達成 ×未達成

活動: ◎よくできた ○まあまあできた △あまりできなかった ×全くできなかった

電力による二酸化炭素削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組内容
数値目標	×	電力削減の表示物の作成や啓発を行ったことにより、継続して無駄な電力消費を抑えています。しかし結果として電気使用量は増加してまいりました。原因として、コロナ対策の為の部屋の使用数の増加等が考えられます。次年度より、増加した部屋・空調機を見直し、節電を行っていきます。
・エアコン温度管理の徹底(夏:28度、冬:20度)	○	
・不在の部屋の消灯徹底	○	
・電機ポット(保温)は日中のみ使用	○	

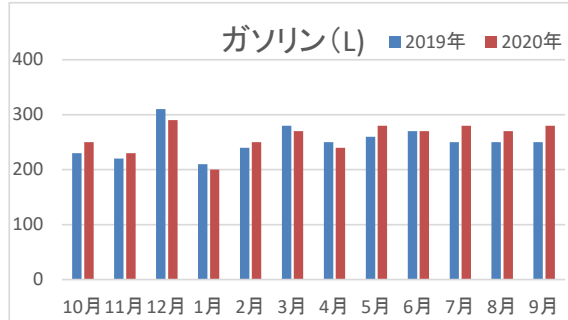


取組紹介欄



	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
2019年	4,071	4,790	5,276	6,346	5,994	4,748	4,184	4,607	5,950	5,950	6,686	6,257
2020年	5,252	4,918	5,519	6,233	5,744	4,694	4,380	4,308	5,621	6,375	8,087	7,133

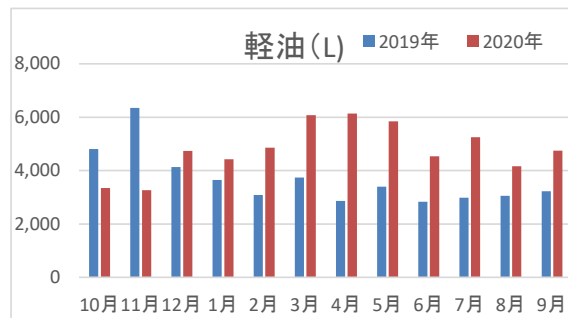
自動車燃料による二酸化炭素削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組内容
数値目標	×	定期的に収集経路をチェックし、効率化を図ることで走行距離の削減しております。 また、IP無線を利用することで、収集ルートが見える化となっております。 しかし、車両の増加並びに搬出頻度の増加により、結果としてCO2排出量は増加しております。 業務チームで月に一度ミーティングルームを行っているため、更なる効率的なルート作成及びエコドライブの周知を行ってまいります。
・エコドライブの徹底	○	
・合理的な収集経路	○	
・車両点検の徹底	○	



取組紹介欄



	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
2019年	230	220	310	210	240	280	250	260	270	250	250	250
2020年	250	230	290	200	250	270	240	280	270	280	270	280

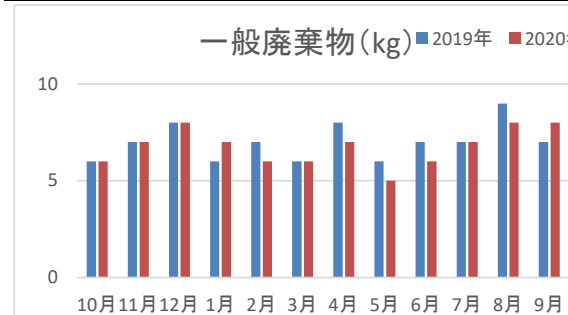


取組紹介欄



	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
2019年	4,807	6,352	4,135	3,645	3,081	3,740	2,863	3,401	2,835	2,983	3,059	3,225
2020年	3,342	3,270	4,734	4,423	4,862	6,072	6,135	5,842	4,538	5,250	4,167	4,749

一般廃棄物の削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組内容
数値目標	×	分別の為、ゴミ箱を6種類設置しています。 お客様への説明の際にも必要なので、社員教育にも役立っています。 目標値を達成することは叶いませんでしたが、人員が増加する中で昨年度より削減がなされているため、ペーパーレス等更なる削減に努めてまいります。
・分別の徹底	○	



取組紹介欄



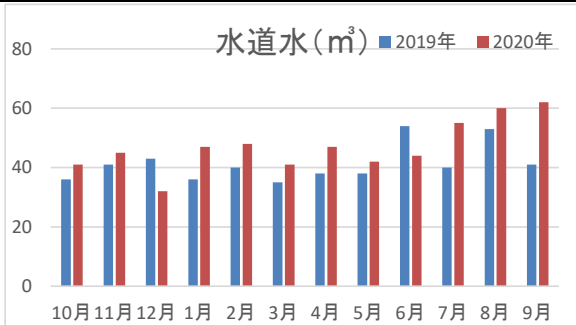
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
2019年	6	7	8	6	7	6	8	6	7	7	9	7
2020年	6	7	8	7	6	6	7	5	6	7	8	8



受託廃棄物のリサイクル率の向上		取組結果とその評価、次年度の取組内容
数値目標	○	受託した廃棄物の分別を徹底し、各リサイクル・処分場へ搬出しました。 次年度も引き続き分別・処分場の開拓を行います。 処分施設の見学についても、オンラインによる開催を計画しております。
・排出先の分別徹底の依頼	○	
・選別の徹底	○	
・リサイクル先の開拓	○	
・処分施設の見学	○	



水道水の削減		取組結果とその評価、次年度の取組内容
数値目標	×	各車両ごとに担当や清掃時間を設けることで、洗車の重複がなくなりました。各工場内での散水の為、使用量が増加してしまいましたが、それ以外で節水を呼びかけ水道使用量を使いすぎないように気を付けています。次年度も使用量削減を目指します。
・散水時の節水	○	
・洗車時の節水	○	
・トイレの二度流し禁止	○	



	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
2019年	36	41	43	36	40	35	38	38	54	40	53	41
2020年	41	45	32	47	48	41	47	42	44	55	60	62

グリーン購入の推進		取組結果とその評価、次年度の取組内容
・事務消耗品を選ぶ際には、グリーンマークを参考	○	定期購入する商品を見直し、環境に配慮した商品を購入した。 適正在庫を減らし、必要な数だけ購入した。 次年度も継続して、商品のグリーンマークを参考にしていきます。

取組紹介欄



環境に配慮した収集運搬	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組内容
・作業開始前の車両点検	○	毎朝担当車両を点検・清掃を行いました。また、積み残しはありませんでした。 次年度も引き続き行います。
・エコドライブの推進（燃料使用量は別項）	○	
・積み残しの削減	○	
・車両の清掃	○	

取組紹介欄



□環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果、並びに違反、訴訟の有無  
法的義務を受ける主な環境関連法規制は次の通りです。

適用される法規制	適用される事項（施設・物質・事業活動等）
廃棄物処理法	収集運搬業、中間処理業、産業廃棄物（廃プラ、廃ガラス、廃油等）
道路運送車両法	車両の大きさ・重量、乗車の保安基準
道路交通法	車両の大きさ・重量、通行制限
廃棄物処理法	一般廃棄物、産業廃棄物、特別管理産業廃棄物
大阪府条例（流入車規制）	収集運搬車
フロン排出抑制法	空調機の定期点検

環境関連法規制等の遵守状況の評価の結果、環境関連法規制等は遵守されていました。


□緊急事態対応訓練

緊急事態の想定： BCP(事業継続計画)	
■実施日： 2020年11月29日～	■実施場所 本社工場
■参加者： 代表及び社員6名	■実施内容 BCPの策定
■実施状況の様子	
	<p><b>BCPプロジェクト</b> 第二回 【BCP策定・運用の目的】 Purpose of BCP formulation and operation 2020.02.26(Wed) メンバー： 樋下社長・常務・塩見・泉谷・松岡 オブザーバー： よろず崎様</p>

緊急事態の想定： 火災発生	
■実施日： 2020年7月8日	■実施場所 此花リサイクル工場・第二工場
■参加者： 社員10名の参加	■実施内容 火災準備物点検
■実施状況の様子	
<p>火災の発生を予測して、火災対応に対するシミュレーションを行いました。消火器の確認は毎月1回行っています。また、火災対応手順書の変更の必要性がないことを確認しました。</p>	

□代表者による全体の評価と見直し・指示

実施日：2021年1月12日

【前回の指示への取組結果】 HPの更新。 エコアクションに関する掲示物の作成。	
<情報>	<見直し・指示>
◇自社を取り巻く環境問題の変化 (社会的情勢、利害関係者の要求等) 環境問題の変化無し。	◇環境方針 今後も地球温暖化対策に取り組み、持続可能な社会の形成に貢献する。
◇環境経営目標・計画の達成状況	◇環境経営目標・環境経営計画 コロナ禍によるエネルギーの削減を提案。 その他項目の更なる削減。
◇その他 特になし	◇実施体制他 特になし
<p>本年度は環境活動を活発的に実施することができたものの、コロナ対策の実施により二酸化炭素排出量が増加してしまいました。使用部屋の分配・車両の貸出等のコロナ対策のように必要な措置は行っていきますが、引き続き無駄なエネルギー使用を削減して参ります。しかしウェブ会議やクラウドスの利用等のIT化を進めたことにより、社員一人一人の持つ情報を見える化し、お客様の情報、廃棄物の情報等をすぐに共有できる環境を整えることができました。また、お客様にも電子マニフェスト化・電子契約を提案し、ペーパーレス及び業務時間の短縮に繋げております。今後も環境に携わる企業として、引き続き我々がやっていることも含め、お客様・地域の方々に継続的な環境啓蒙活動を続けていく所存でございます。</p> <p style="text-align: right;">               株式会社 ジェイ・ポート 代表取締役 樋下 茂         </p>	

- |           |  |  |
|-----------|--|--|
| 環境経営方針    | <input checked="" type="checkbox"/> 変更なし | <input type="checkbox"/> 変更あり            |
| 環境経営目標・計画 | <input checked="" type="checkbox"/> 変更なし | <input type="checkbox"/> 変更あり 実績を踏まえて見直す |
| 実施体制      | <input checked="" type="checkbox"/> 変更なし | <input type="checkbox"/> 変更あり            |

□これまでの環境活動の紹介

2020年は、エコアクション21 認証・登録を始めて11年目の年となりました。これは全てこれまで歴代にお世話になった審査人の方々のおかげだと感謝しております。エコアクション開始の際には何もわからずひたすら審査人の方にご指導いただきデータ集めから始め、認証・登録までたどり着きました。10年以上経過した今でも、毎年審査人の方に色々な事を教えていただき、継続していることは変わりありません。開始当初からデータを集めて精査することだけでなく地域貢献と考え始めたゴミ拾いは、今もずっと継続しております。データだけでなく、こういった活動も始める事が出来た良いきっかけになりました。今後も引き続きご指導ご鞭撻いただきながら、この環境マネージメントを続けていきたいと思っております。

